

# 陸自OBを救った隊友会の頼もしさ

准陸尉 久保 光裕 (和歌山地本援護課)

隊友会には、元自衛官の絆が思っていると感じます。それを実感した出来事を紹介いたします。

私は、地方協力本部に勤務していますので隊友会との関わりも多くあります。ある日私は、友人である神社職員のHさんより相談を受けました。元自衛官のO氏(78)が困っている。同じ自衛官として、なにか良い方法があれば教えてほしいと。

元陸上自衛隊員のO氏は、平成14年頃から約20年間毎日、休日なしで、お礼奉公として早朝3時頃から昼過ぎまで、G神社の境内の清掃活動等を行っていました。

O氏は自衛隊を退官後、某企業を定年退職しました。その後、身寄りもなく、自暴自棄に近い荒れた生活を送っていました。しかし、G神社の神職から助言を得て自立したという経緯があり、そのお礼奉公にと、約20年間神社のために尽くしたのでした。

そのO氏が、令和3年12月24日、2日間もG神社に出でこないと、Hさんは一人暮らしをしているO氏が心配になり自宅を訪ねたところ、1人で動けない状態になっていました。すぐに最寄りのクリニックに搬送したのですが、重病で対応できなかったため、総合病院に搬送されました。「すぐに手術しないと2時間の余命です」との診断結果でしたが、O氏はなかなか手術を望みませんで

した。親族も消息不明で、神社の職員、友人たちが必死にO氏に手術に同意するよう呼びかけ、やっとのことで同意を得て、緊急手術となり、一命をとりとめました。

その後順調に回復し、ある日、O氏は病院での食事の際「こんなおいしい食事を食べたことがない」と生きていることに対する感謝の涙を流しました。

しかし、神社職員のHさんは身寄りのないO氏の今後の身の振り方を考え、途方に暮れていました。

そこで私は3月、自衛隊OBならば隊友会に相談すれば良いのではと、隊友会会長を訪ねたのでした。す

ると、その場で「20年も奉仕を続けられるような立派な方を路頭に迷わせるわけにはいかない。隊友会が面倒を見ないといけない」と即答し、O氏を隊友会に入会させました。さらに、介護の件について市役所に問い合わせ、隊友会会員が経営する有料老人ホームに問い合わせ、迅速、的確に対応してくれました。

これによってO氏は介護認定を受け、6月上旬、有料老人ホームに入居しました。

現在、O氏は、面会に来る友人との語らいを楽しみに、老人ホームで幸せな余生を過ごしています。

O氏の一命をとりとめる

に至った関係者、O氏を献身的に世話した神社職員のHさん、O氏を受け入れてくれた有料老人ホームの隊友会会員経営者に感謝するばかりです。また、「元自衛官で、同じ釜のメシを食べた仲間」ということで「隊友会が面倒を見ないといけない」と即答できる隊友会会長の懐の深さ、慈悲深さが感じられた出来事でした。そして、そういう人々が集まる元自衛官の会「隊友会」は素晴らしい団体であり、現職自衛官として頼もしく感じました。